

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部 公園・生活排水課
評価対象期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	ハーモニーパーク	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	日出町大字藤原5933番地		
	設置目的	公共の福祉の増進に資すること		
指定管理者	名称	株式会社 サンリオエンターテイメント		
	代表者名	代表取締役社長 辻 信太郎		
	所在地	東京都多摩市落合1丁目31番地 (ハーモニーランド運営部 大分県速見郡日出町藤原5933番地)		
指定管理業務の内容	①公園施設の維持管理及び修繕に関すること ②都市公園の利用の受付及び案内に関すること ③都市公園施設の利用の許可に関すること ④都市公園の利用の促進に関すること ⑤その他知事が特に必要と認めること			
料金制度	利用料金	・ 使用料	・	該当なし
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果を得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】
	○ 管理運営に不適切な点は見当たらない。
	○ 平成27年度のハーモニーランドの入場者数は551,110人で、目標値401,500人に対し149,610人増(達成率137.3%)、また、平成26年度実績の466,550人に対し84,560人増(前年比118.1%)とかなり上回っており、評価できる。 なお、ハーモニーランドを除く公園部分の利用者数の把握を平成26年度から試みているが、平成27年度は59,969人であり、平成26年度の56,388人を上回った。
	○ 公園部分をメイン会場として、4月、9月～3月にイルミネーションを実施している。 県内の竹工芸職人に協力してもらい公園内竹林・山林エリアの竹を用いた作品もイルミネーションの一部として展示しており、公園内の竹林・山林の利活用、PRにもつなげている。 2万人を超える来場者があり、利用者獲得に欠かせない事業になっている。
	○ 公園内のフェスティバルステージにて、例年開催されている大分県内のスポーツ団体(バザジ大分、三好ヴァイセアドラー、NBUチアリーディング部)とのタイアップイベント、県北の私立幼稚園6園合同主催の子育て支援コミュニケーションイベント等に加え、平成27年度は新たに大分市障がい児(者)交流会が開催されるなど、イベント開催場所としての提案活動を積極的に行っている。
	○ サンリオグループ感謝企画としてサンクスパーティー(ハーモニーランド無料解放)の実施、日出町民無料招待、また、新アトラクションの導入に伴い随時地元小学生を無料招待するなど、利用者の増加を図るとともに地域に密着した運営をしている。

(2) 利用者の満足度

- ①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 公園部分をメイン会場にしたイルミネーション開催時にアンケート調査(年齢構成、イルミネーションの感想、森林・竹林公園の感想、要望、来園のきっかけ・目的、要望等)を実施し、利用者の要望を把握している。
- 雨天時にも楽しめるアトラクション等を設置してほしいという要望が最も多かったが、平成26年度末にパレード舞台に大屋根を設置しており、平成27年度の梅雨時期(6月)の入場者数が前年比115%と増えるなど、効果が現れている。
- 利用者からの要望の内、トイレへの子ども用便座の設置等はほとんど対応済みであり、今後もさらなるサービスの向上を期待したい。
- ハーモニーランドの営業、公園内でのイベント等についてホームページやフェイスブック、ツイッター等で毎日情報を発信している。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

- 各設備の自主作業を増やすことによる外注費節減及び機器運転時間の見直しによる電気料等の節減を行っている。
具体的には、
 - ①各種電気設備の絶縁調査測定作業等について社員による自主点検の実施
 - ②水系噴水ポンプの稼働時間縮減、トイレ擬音発生装置取付、水栓蛇口のプッシュ式化による水道費の削減
 - ③LED電球への交換、電気契約の見直し、エスカレーターの自動運転化(センサー感知により作動)による電気代の削減等。
 平成27年度は、前年度に比べ利用者が増えているにもかかわらず光熱水道費は下回った。

(2) 収入の増加

- ①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 使用料収入(第3駐車場)は、26年度は6,126千円、27年度は8,561千円(前年比139.7%)と増えている。
新規のイベント獲得等、施設利用者増加の取り組みの効果が現れているものと思われる。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

- サンリオエンターテイメント(ハーモニーランド運営会社)の職員がハーモニーパークの電気、給排水、清掃、警備等の業務を兼任する体制を整えていることで合理的かつ必要十分な人員配置が図られている。
- 外部講師を招いての接客研修や接客部門を中心としたミーティング(毎週及び毎月)、全社員出席の全体会議を3ヶ月毎に開催している。
- 大分県内のスポーツ団体とのタイアップイベントや県北の私立幼稚園6園合同主催のイベント、大分市福祉施設の交流イベントが開催されるなど、県内団体との連携、協働が図られている。
- 都市緑化月間に併せた緑化啓発イベント「いきいきグリーンプランDAY」を県と協力して実施している。当日のハーモニーランド入園料を無料とし、ハーモニーパーク内で緑化に関するスタンプラリーや大抽選会、また、花の苗や苗木の無料配布等を行い、緑化啓発と利用者の増加に努めている。
また、例年開催にあたって協力を得ている県内団体((一社)大分県造園建設業協会、(一社)日本造園建設業協会大分県支部、農林中央金庫大分支部)との関係性をますます深めている。
- 近隣の小学校や幼稚園、社会福祉施設の遠足等での公園部分の利用促進を図っており、平成27年度は新規で3団体(幼稚園、託児所等)の利用があるなど、効果が出ている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。
- ⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

- 法や条例に基づき社内規定を制定し、その周知及び順守徹底に努めている。
- 「情報セキュリティについての自己点検」という形で個人情報保護規定の周知を図るとともに、アンケートをとり遵守されているかどうか等確認している。
- 収支内容に不適切な点は見当たらない。
- 独自の安全管理マニュアルに基づく定期点検や消防訓練、AED講習も行っている。
- 日常点検によって判明した管理物件の不具合箇所(軽微なもの)については迅速に修繕を行っている。
- 緊急連絡体制やマニュアルが整備されている。
- 年間を通して事故はなく、災害による被害もなかった。
- 台風等の際には閉園の協議を行い、事後には速やかに点検を行うなど、適切な対応がとれている。

【総合評価】

〔所見〕

- 公園部分をメイン会場とした冬期夜間営業のイルミネーションや、大分県内のスポーツ団体とのタイアップイベント、県北幼稚園との合同イベント等の例年の取り組みに加え、新規のイベントや遠足による来園を促し、利用者増加につなげている。
- 施設管理は経費節減の努力をしながらよく行われている。

〔今後の対応〕

- 今後とも施設をより一層周知し、利用促進を図ることが望まれる。
- 平成26年度、27年度に実施した県の里山利活用推進事業を引き継ぐことになったことから、指定管理者として竹林・山林エリアのさらなる利用促進及び地域や関係団体とのさらなる関係深化を図ることが期待される。

【指定管理者評価部会の意見】

- 竹林・森林エリアの価値を高める取組を進められたい。
- 竹林・森林エリアの活用に資するコンテンツが必要ではないか。
- 竹の成長は早いため、現状の管理のままでは荒れた状況になり、さらに活用が難しくなるのではないかと危惧する。
- 委託料のうち竹林・森林エリアの管理にかけられている費用が少ないのではないか。
- 活用が進まなければ、都市計画公園の代替を確保するなどし、将来的に竹林・森林エリアを廃止することも検討できないか。
- 維持管理に係る再委託先の選定にあたっては、より競争を促す取組が必要ではないか。